

学校給食のあり方を問う

答 いろいろな角度から議論していく



宮城 寛諄 議員

問 隣の議会広報誌に、広域行政で給食センターの運営を3町の副町長で話しあっているという報告されているが、事実か。

副町長 立ち話程度はあったが、正式な場として、3町で話し合いをした事実はない。

問 食材の確保、アトピー等の問題を考えたとき、学校ごとの給食、小回りの利く調理場がいいのではないか。また第五次南風原町総合計画案で広域化について述べているが、給食センターもその一つとして考えているか。

町長 学校ごとの給食は、理想である。場所・諸経費を考えると理想のようにはいかないのが現状である。広域の問題等もいろいろな角度から調査研究することも大事である。

山川地区付近の農道整備を

問 山川地区から八重瀬町へ町道126号線が延びている。その町道から、2本の農道がある。八重瀬町地番だが、地権者は南風原町民である。整備ができないか。

経済建設部長 一つは私道のため整備はできない。もう一つは八重瀬町の里道となっており整備できない。

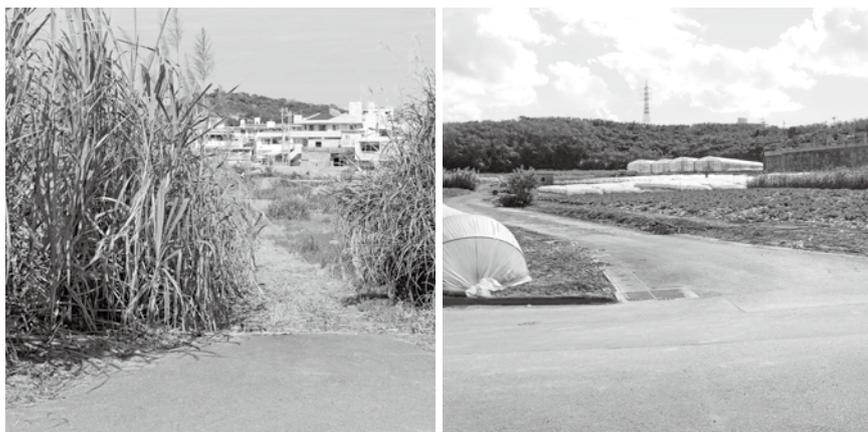
問 本町で整備できなければ、八重瀬町に要請できないか。

経済建設部長 農家の皆さんが困っているということで、要望については一緒にやっていきたい。

問 隣の町にまたがるとき、整備するための基準はあるか。

まちづくり振興課長 当該市町村の区域を越えて市町村道の認定をすることはできる。その場合は、相手方の議会の議決が必要となる。また、町道

認定は起点・終点が国・県・町道及び農道のいずれかに連結となっているか、集落、公共施設に通じる道路かが認定の基準となる。今回の2路線は基準に合わないと考えている。



整備を要望している2本の農道（山川付近）

こんな質問もしました

○高齢者福祉のさらなる充実を